

(8) 中国

(8) 中国



中国地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

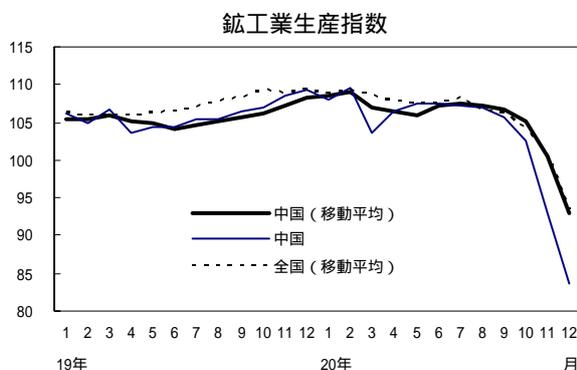
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 20 年 11 月)	今回 (平成 21 年 2 月)	
景況判断	やや弱まっている	急速に悪化	
鉱工業生産	緩やかに減少	極めて大幅に減少	
個人消費	やや弱含み	弱い動き	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	
雇用情勢	悪化しつつある	極めて急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。

鉄鋼は、自動車向けを中心に大幅に減少している。化学は、一部の事業所で定期修理があったことに加え、自動車や家電向けのエチレンの生産水準が低下したことから、減少している。輸送機械は、欧州や新興国向けの需要が急激に低下し、極めて大幅に減少している。一般機械は、海外向けの建設機械の生産が低調だったこと等から、減少している。電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路や携帯電話向けの固定コンデンサを中心に、大幅に減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

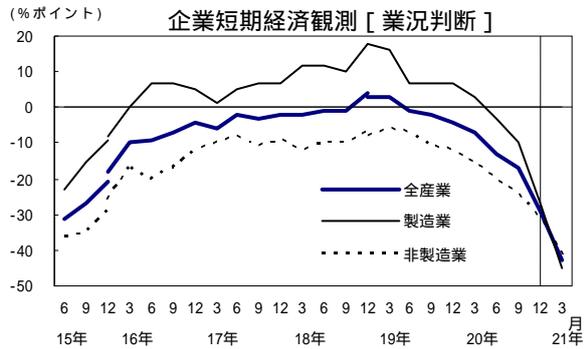
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
鉄鋼	16.5	0.5	14.3	17.8	6.4
化学	16.1	5.8	13.3	13.6	0.2
輸送機械	14.8	1.3	19.6	19.1	26.1
一般機械	10.7	5.7	7.8	7.8	3.2
電子部品・デバイス	7.3	2.5	18.2	16.1	-
鉱工業	100.0	0.4	12.7	14.4	0.2

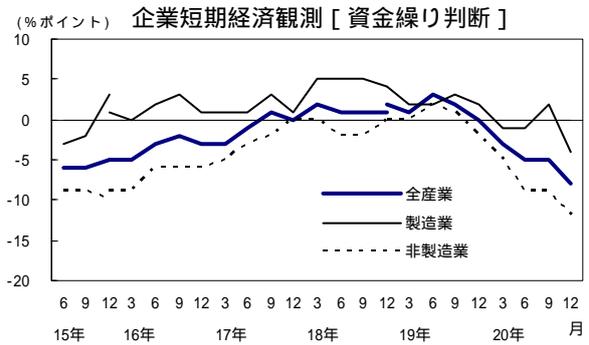
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

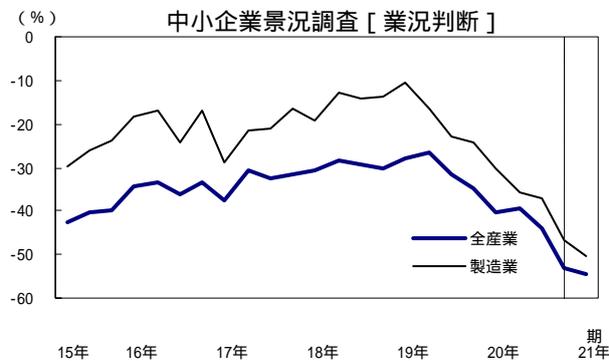
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

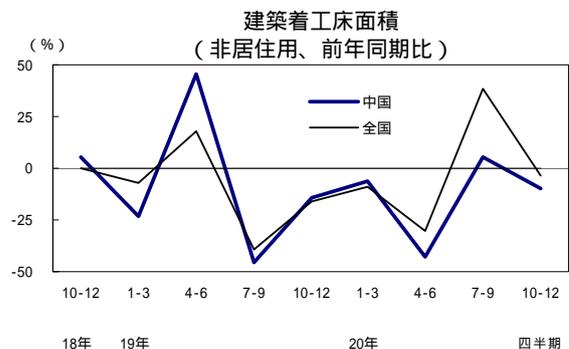
「在庫過多及び販売の低迷により、生産数量の調整が前年末から始まっており、生産部門の休業対応を余儀なくされている(輸送機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	9.4	1.7 (0.7)
製造業	5.8	4.2 (1.4)
非製造業	15.8	11.5 (3.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

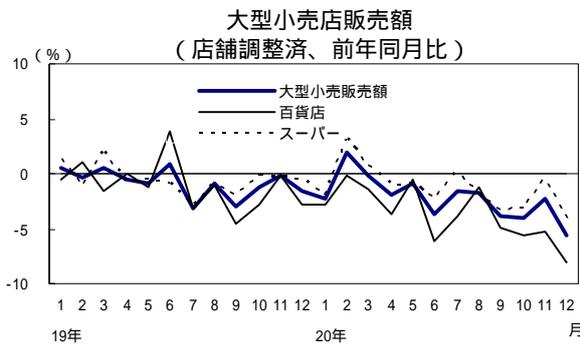
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、飲食料品の動きが良かったものの、秋冬物のコート等の重衣料が低調だったことから、前年を下回った。11月は、気温が高めだったため、婦人物のコートなど衣料品の動きが低調だったことに加え、宝飾・貴金属等の高額商品も不調だったことから、前年を下回った。12月は、クリアランスセールの前倒しがあったものの、高級ブランドを中心にクリスマス商戦が不調だったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、1月の中国地区の売上高は、前年同月比で8.9%減となっている。

スーパーは、肉食志向の高まりから、精肉などの食料品や台所用品が好調だったものの、衣料品、身の回り品などが低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

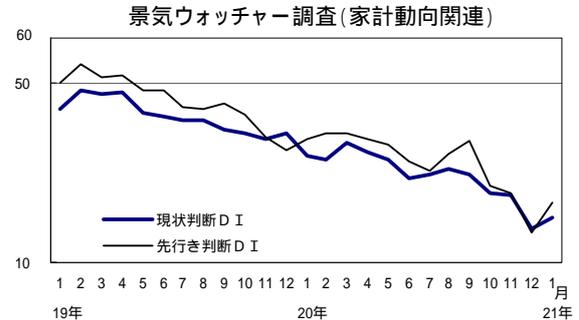
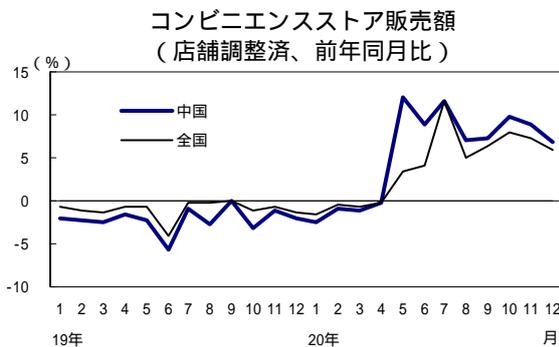
「初売り等の展示会への来客数は前年と大差はなかったが、販売実績は半分にも満たなかった(乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.3	2.2	2.3	4.1
百貨店	1.6	3.5	3.4	6.5
スーパー	0.5	1.4	1.7	2.7
コンビニ	1.5	6.9	8.6	8.5
景気ウォッチャー	34.4	32.2	30.1	22.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

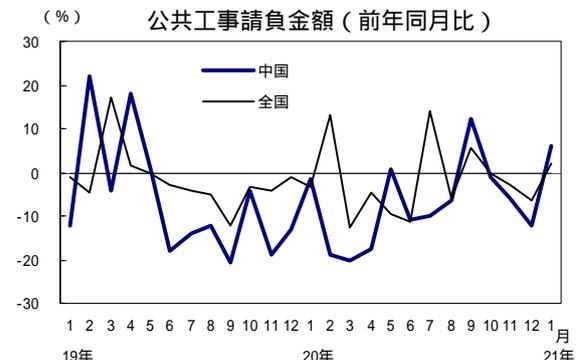
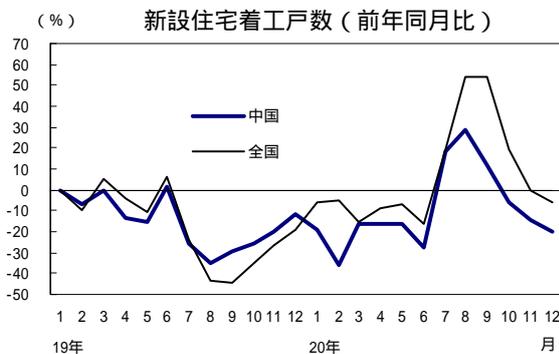
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

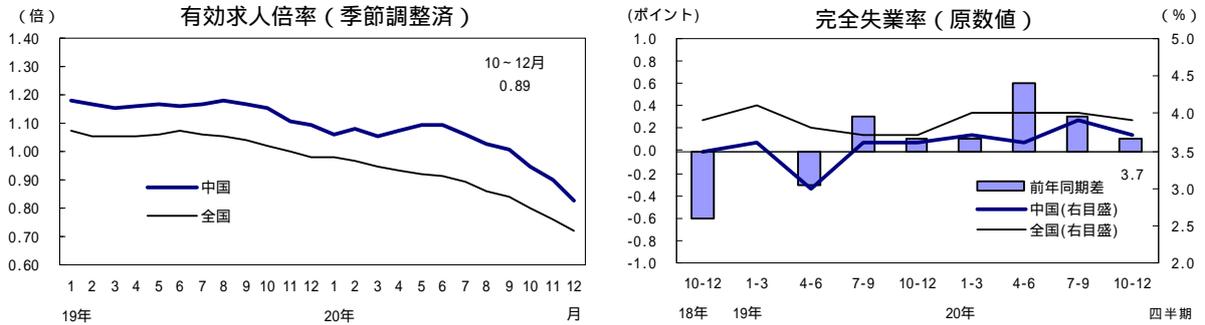


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

「世界的な不況により、製造業を中心に、雇用調整助成金の相談や計画届が増加している。また休業による生産調整だけではなく、10人以上の規模で人員整理を行う予定の企業も出てきている(職業安定所)」など「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	161	199	189	199	59
(前年比)	1.9	38.2	31.3	27.6	34.1
負債総額	524	662	3,289	507	463
(前年比)	14.3	45.8	266.8	18.8	144.9



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・企業の宴会は予算が下がったり、中止になる所が出ている。婚礼も、レストランで結婚式どころではないと、キャンセルになったケースもある(都市型ホテル)。

<先行き>

・高速料金を1,000円とする施策でETCへの期待はあるが、現状の来客数と接客での客の反応から考えれば、一層厳しくなる(自動車備品販売店)。

